北海道医師会役員

退任のご挨拶

理事退任のご挨拶

前理事

對馬（つしま）　伸泰（のぶやす）

この度、北海道医師会理事退任となりましたのでご挨拶申し上げます。私は北広島医師会所属ですが中央ブロックに属しておりまして、札幌以外の郡市医師会である江別、石狩、千歳、恵庭市、北広島の５つの医師会が、持ち回りで理事を務めさせていただいております。任期は２年間と短い間でしたが、いろいろな経験をさせていただき、とても勉強になりました。郡市医師会と比べて、北海道医師会は広域な北海道をまとめる大変な仕事であるとともに、中央の日本医師会とも太いパイプを持ち、やりとりをする大変な激務であることを痛感しました。いま、日本では医療崩壊がにわかに取りざたされています。これを防ぐには、日本全体で医師会員が危機意識を共有し、一丸となって国と折衝していくしかありません。北海道医師会がリーダーとなり、郡市医師会を鼓舞して未来を開いてくれることを願ってやみません。

理事退任のご挨拶

前理事

奥村（おくむら）　利勝（としかつ）

2020年より、５年間理事を務めさせていただきました。その５年というと、まさに旭川医大激動の最中で、加えてコロナ禍と自分自身にとって最も過酷な時期であり、それらに精一杯で北海道医師会へ貢献できたとは思えません。申し訳ございませんでした。

コロナを経験して大変だったことは多々ありますが、よかったこともゼロではありません。旭川にいると、東京での１時間の会議のため１泊２日で会議に出席することもあり、場合によってはあまり発言もなく、ただ会議に出席していることもありました。しかしコロナでリモート会議が開催され、旭川の自分の机から会議に参加し、前後の時間に制限を受けることもなく、生きた時間を節約できるようになりました。北海道医師会主催の毎年開催される１泊２日の「研修指導医のための講習会」では、十数年タスクフォースとして参加してきましたが、この会も密室に40名余りの指導医の先生たちと数名のタスクフォースが過ごす濃密な時間が恒例でしたが、2021年からは参加する先生は釧路や稚内から札幌へ来る必要もなく、ご自身の端末からリモート会議に入り、グループワークもできるようになりました。コロナの経験が人や時間の流れを変えました。この節約できた時間の総和は非常に大きく、日常業務に余裕ができたと感じています。ということは、今までいかに移動などに時間を割いていたかということです。この節約時間は特に、落ち着いて論文を書く時間の捻出には絶大な効果がありました。

学会も現在では教育講演会などはリモート参加できる場合もあり、対面参加の良いところはもちろんありますが、リモート参加で主旨を満たす学会・研究会もあり、医学会に様々な手段をくれるきっかけになりました。コロナにより我々は大きな犠牲を払いましたが、この経験を自分たちの働き方・生き方を見直すきっかけにし、日本一面積が広い範囲をカバーする北海道医師会の益々の発展に結びつくことを期待します。５年間お世話になりました。